

## 各位

党派を超えて国家的課題を追求する

公益財団法人協和協会

時代を刷新する会

両団体会長代行 岸 信夫

両団体理事長 半田晴久

環境技術委員長 坂本忠彦

両団体専務理事 清原淳平

## 環境技術委員会のお知らせ (第345回)

日時 平成30年3月22日(木) 午後1時半～4時

場所 衆議院第一議員会館 地下1階 第4会議室

千代田区永田町2-2-1

◆国会議事堂前駅(丸の内線・千代田線)①番出口より2分、永田町駅(有楽町線・半蔵門線)①番出口より下車5分。当日、午後1時より、議員会館玄関にて、通行証を差し上げます。その時刻前に到着された方は、恐縮ですが、受付脇のロビーにてお待ち下さい。会議開始後にお越しの方は、受付に「第4会議室に行きたい」旨お伝え下されば、お迎えに参ります。

議題 1、「環境問題について、昨今、思うこと」

挨拶 坂本忠彦環境技術委員長

2、大気汚染物質を削減可能なマグネシウム精錬技術

解説 和田雄二東京工業大学物質理工学院教授

3、『環境技術関連ニュース NO.167』

解説 中島稔科学技術部会長

報告 去る2月22日開催の第344回環境技術委員会は、坂本忠彦委員長が議長を務め行われました。まず、坂本委員長より、「環境問題について、昨今、思うこと」と題して開会挨拶がありました。今年は全国的に降雪が多い。雪雲は日本海から延びる線上のものだが、北朝鮮と中国国境にある白頭山でロシアからくる寒気が左右に分かれ、再び日本海で合流することで不連続な低気圧が生まれ、今回のような大雪をもたらしている。さらに、平年は線上の雲が今年は層状になっているため、普段あまり降らない海岸地帯にも大雪を降らせている。

次に、清原淳平専務理事より、当日の講師・高橋嘉夫東京大学理学

系研究科教授の経歴紹介がありました。次に、高橋教授より、「河川中の放射性セシウム除去につながる溶解阻害物質の解明」について解説がありました。福島第一原発の事故において、1号炉と2号炉では汚染の度合いが違う。1号炉は水素爆発し、プルトニウムやウランも飛び出したが、2号炉はメルトダウンし、気化した物質が空中に流れ出し、それが汚染を大きくした。そのうちのヨウ素は、半減期が8日間なので、今となっては消滅している。ストロンチウムも骨に入ると人体に悪影響を及ぼすが、地下水に溶けてしまっており、これも現在のところまだ対策が講じようがない。残るセシウムは、地表にとどまるので、地表を削れば除去することができる。では、なぜセシウムは地表にとどまる性質を持つのか、というのが今回の研究である。セシウムイオンは、水中では水の分子と結合しているが、土壌に入ると粘土鉱物と結合し、大きな粒となって固まる。したがって、雨が降っても表土にとどまっているのだ。表土ごと川に流れ出すと、大きな粒のまま流れるので、フィルターを用いれば回収可能だ。チェルノブイリとの違いは、土壌が有機物を多く含んでおり、鉱物より前に有機物と結合していたため、小さい粒子であった。そのため、川に流れ込み、それをプランクトンが食べ、さらに魚が食べ、人間が食べて人体に悪影響を及ぼした。今回の研究は基礎的なものだが、基礎研究はいずれ様々な分野に応用できる重要なものだ。今回の研究も、海水中のセシウム除去に応用している。

次に、中島稔科学技術部会長より、『環境技術関連ニュース No.166』の解説がありました。今回は、○パリ協定を受け、フランスは脱石炭に舵を切ろうとする一方、ドイツは脱石炭に舵を切れるかどうか。中国は大気汚染対策の反面、経済成長が減速し、問題となっている。また、天然ガスの買い占めに走り、価格高騰を招いている。○核廃棄物を高速炉で処理し、別の物質に変換する技術、○下水汚泥や梅干の廃液を利用したバイオマス発電。○石炭火力発電所から出るCO2で海藻を培養、などの解説があり、一同大いに勉強になりました。

★レクチュアにつき、当日会費千円にご協力をお願い申し上げます。

次回、3月22日(木)の環境技術委員会に

出・欠 (いずれかに○印)

御芳名 \_\_\_\_\_

貴方様のFAX \_\_\_\_\_

テロ対策への警備からの要請上、会員に限ります。

非会員で参加希望者は、2日前までに履歴書をご提出下さい。

(その際の当日会費は二千円となります。)

事務局宛FAX 03-3507-8587

公益財団法人協和協会 03-3581-1192 時代を刷新する会 03-3272-4320

ホームページ <http://www.kyowakyokai.or.jp> Eメール [shigeta@jidaisassin.jp](mailto:shigeta@jidaisassin.jp)